

## 11月の星空

[19日は部分月食](#)。月がひじょうに大きく欠ける、ほぼ皆既月食と呼べるほどの現象だ。地上風景とのコラボレーションや、そばに並ぶプレアデス星団との共演なども見どころとなるだろう。[5月の皆既月食](#)は雲に阻まれた地域も多かったが、今回こそは好天の下で赤っぽい月を眺めたい。

今月のもう一つの注目は[8日の日中に起こる金星食](#)で、国内の広範囲で見られる現象としては9年ぶりとなる。詳しく見るには双眼鏡や天体望遠鏡が必要となるが、ぜひ観察してみよう。月や金星の位置の確認には「[星空ナビ](#)」などのモバイルアプリが便利だ。当日は夕空で2天体が並び輝く光景もお見逃しなく。

宵の南西の空に並ぶ木星と土星はシーズン後半。明るく目立つ2惑星を眺めた後には、うお座やさんかく座など少し目立たない星座も探してみよう。[天王星](#)や[準惑星ケレス](#)、[アンドロメダ座大銀河](#)などの観察、撮影にもチャレンジしてみたいだろうか。

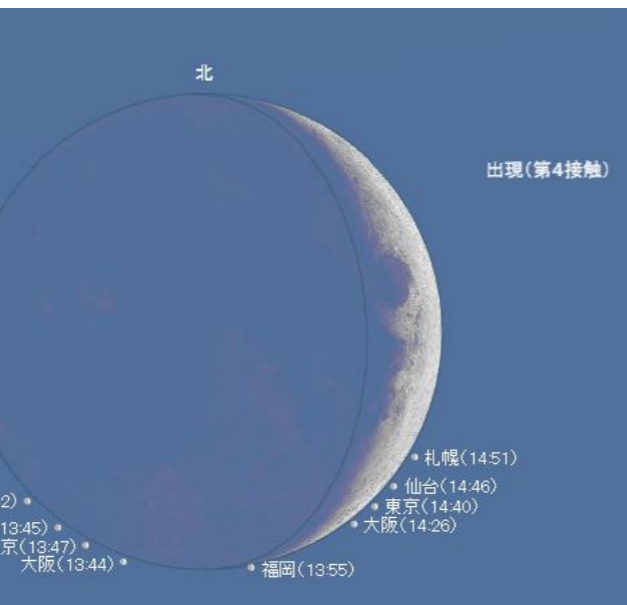
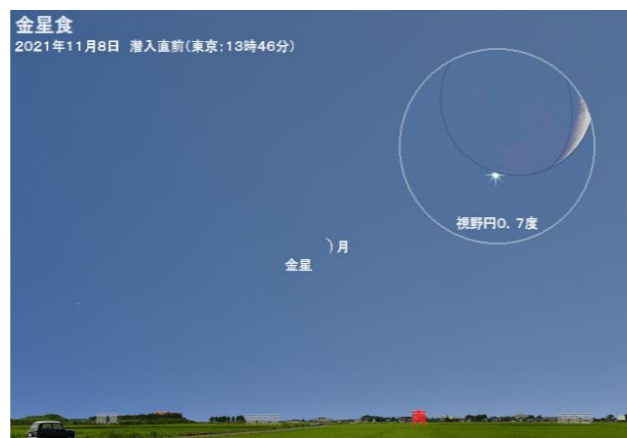
### 2021年11月8日 金星食／細い月と金星が大接近

11月8日の13時30分から15時ごろ、月齢3の細い月が金星を隠す金星食が起こり、中国・四国地方より東の地域で見られる。日本の広い範囲で金星食が起こるのは2012年8月14日以来、約9年ぶりだ。

東京の場合、13時47分ごろに金星が月の暗い縁に潜り始め、約2分後にすっかり月に隠される。その後、14時38分ごろに金星が月の明るい縁から出現し始め、約2分後に月の裏から完全に抜け出して食が終わる。潜り始めと出現の時刻や月の縁のどこに出入りするかは観察場所によって異なるので、シミュレーションなどで事前によく確かめておこう。福岡、北九州、大分、宇和島などでは、金星が部分的に月に隠される珍しい現象が見られる。

月も金星も明るい天体ではあるが、日中の現象なので肉眼で見るとはかなり難しい。双眼鏡や天体望遠鏡で観察しよう。

また、この日の夕方から宵には、南西の低空で細い月と金星が大接近している光景が見られる。この美しい共演は全国で見られ肉眼でもじゅうぶん楽しめるので、こちらも見逃さないようにしよう。次回の共演は12月7日。



### 2021年11月18日 しし座流星群が極大

11月18日、しし座流星群の活動が極大となる。予測極大時刻は2時で、18日の未明から明け方ごろが一番の見ごろとなる。

満月直前の月明かりの影響がほぼ一晩中あるため、条件は良くない。活動の規模も低調とみられるので、見晴らしが良いところでも1時間あたり数個程度だろう。1つでも流れればラッキー、くらの気持ちで、月から離れた方向を中心に眺めてみよう。観察の際には防寒の準備を万全に。

1999年や2001年の大出現が有名なしし座流星群は、テンペル・タトル彗星の通り道を毎年この時期に地球が通過し、そこに残されていた塵が地球の大気に飛び込んで上空100km前後で発光して見える現象である。



### 2021年11月19日 部分月食



11月19日の夕方から宵にかけて、月が地球の影に隠される部分月食が起こり全国で見られる。[5月26日の皆既月食](#)以来、今年2回目の月食だ。

月食の進行は全国で同時刻に起こり、16時19分に部分食が始まって月が欠けていく。このとき、東北地方南部より南の地域ではまだ月が地平線の下にあり、この地域ではこれより後に欠けた状態で月が昇ってくる（月出帯食）。月の欠け方が最も大きくなるのは18時3分で、ほぼ皆既食と言えるほど大きく欠けた状態になる。その後、19時47分に部分食が終わる。

月の高度は食最大時で20度未満、部分食終了時でも35度前後と低めなので、あらかじめ東方向の見晴らしを確認しておこう。低めの月食なので、風景とのコラボレーションも楽しみだ。欠けた月の近くにはプレアデス星団も見える。

